

最小区分の1つの知識の構成

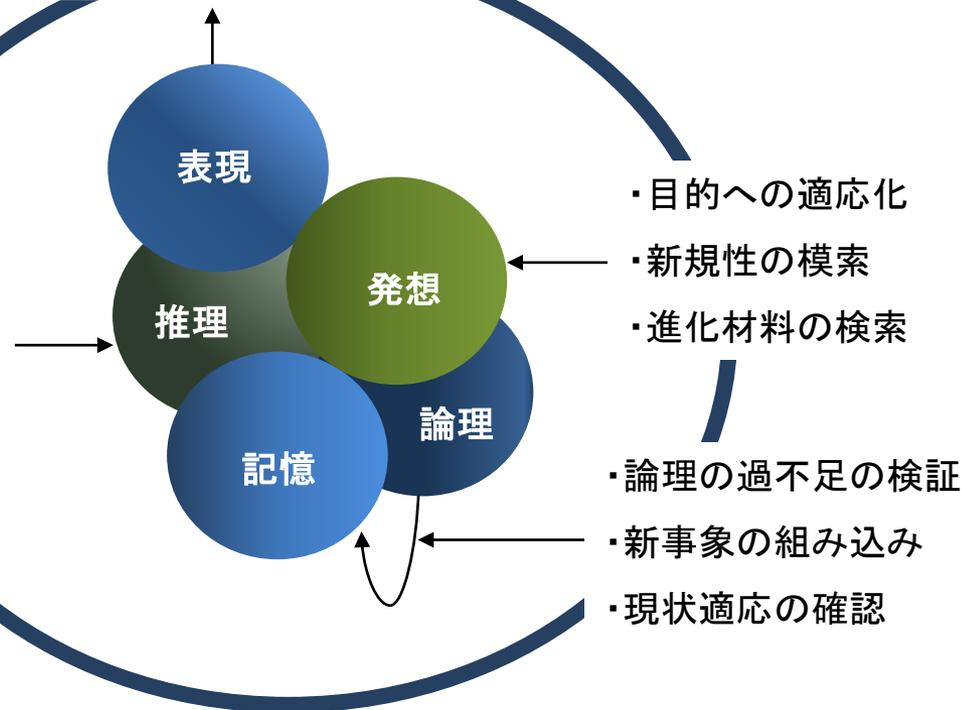
1つの知識を5つの項目または行為に分類しておく。
知識を構成していく要素となる。



核となる一つの知識構造

一つの知識の断片、小さな知識、一つの公式も、記憶、論理、推理、発想、表現で構成されている。

- ・知識の完成
- ・業務適応の開始
- ・知識伝達の始まり



- ・目的化プロセス検証
- ・適応化の検証
- ・整合性の確認

記憶は、諸々の知覚を取り込む入口である。見聞、経験、現象認識を取り込んでいく。学習は、論理から始められるかもしれないが、知識体系は知覚意識から始まっている。自身で論理化する方法(技術)を構築しておれば、知識が自然に増えていく。経験の知識化も可能になる。

表現は、何らかの目的を持つ。表現するために、目的を探し、目的達成のためのプロセスをたどる。材料になるのが、推理と発想である。推理と発想がなければ、表現は受け売りから逃れられない。推理と発想が、適応と新規性を産み出す原動力になる。

一つの知識は、「記憶、論理、推理、発想、表現」で完結する。

知識を作り、学び、教える形のサイクルである。